総務経済常任委員会が報告します！

委員会視察レポート
先進地から学ぶ

有機農業

11月４日　新潟県新発田市

有機農業を核とした持続可能な農業

新発田市は、農業を取り巻く諸課題に対応するため、オーガニックＳＨＩＢＡＴＡプロジェクトを始動。有機米の産地形成、付加価値の高い特産品・加工品づくり、海外販路拡大による輸出の促進という三つの取組を柱とし、農産物の高付加価値化を図ることで、農業所得の向上、持続可能な農業を目指している。

ポイントはココ！

- ●有機農業では農薬や除草剤が使えないため、大学と連携し、**除草ロボットや有機肥料の開発**に取り組むとともに、機械導入費用などを支援。
- ●**市内業者と連携**し、有機米を原料とした加工品を開発。
- ●**市長自らが海外へ赴き**、現地バイヤーにトップセールスを行うなど、**海外販路を拡大**。

視察を終えて

・新発田市は兼業農家が中心で、深川市と農業規模の違いはあるが、オーガニックＳＨＩＢＡＴＡプロジェクトとして、農業と商工業などが連携して市独自のブランドを作り上げることはすばらしい取組で、深川市でも参考になると感じた。（北村委員）

ＡＩ漏水調査

11月５日　新潟県長岡市

漏水調査にＡＩを活用し調査期間と費用を縮減

長岡市では、ＡＩと人工衛星を活用した水道管漏水調査を導入した。従来は2,400キロメートルの管路を10年かけて人力で調査していたが、ＡＩ解析により漏水の可能性がある区域を半径100メートルに絞り込み、調査期間を３年に短縮。経費も約６割縮減された。

ポイントはココ！

- ・ＡＩの導入により、調査期間は10年から**３年へ短縮**、費用は約２億円から**約8,000万円に縮減**。
- ・漏水の可能性があるエリアを**半径100メートルの範囲**で絞り込み、効率的な調査が可能。
- ・漏水可能性エリアとされた場所でも漏水が発見されない場合もあり、精度に課題もあるが、１キロメートル当たりの**漏水発見率は３倍**に向上。

視察を終えて

・人口減少で水道事業の運営が厳しくなってきている本市にとっても、ＡＩを活用した水道管の維持管理は、今後、必要な技術であると感じた。（伊藤副委員長）

・長岡市では時間と経費の大幅な削減となった。深川市では条件が違うため同じ効果になるとは思わないが、検討に値すると思う。（佐々木委員）

地域資源活用

11月６日　富山県射水市

もみ殻循環プロジェクトで地域資源を有効活用

射水市は、毎年大量に発生するもみ殻を地域資源として活用するために「もみ殻循環プロジェクトチーム」を結成。産学官民の連携により、もみ殻から非晶質シリカを生成することに成功し、水稲用肥料の商品化やバイオマスエネルギーとしての利用など資源循環型農業の取組を行っている。

ポイントはココ！

- ●**産学官民による研究**で、一定の温度でもみ殻を燃やす技術を確立し、もみ殻を燃やして非晶質シリカ灰を作ることに成功。
- ●非晶質シリカ灰から作った肥料は**従来のものより安価**で、**地域で出たもみ殻を活用**した水稲用肥料として、ＪＡいみず野管内で使用されている。
- ●燃焼時の熱はイチゴハウスの暖房に使うなど、**バイオマスエネルギーの活用**も実現。

視察を終えて

・もみ殻から作った肥料は従来肥料より安価で、肥料等生産資材が高騰する中、こういった経費の削減も、大いに参考になると考える。（有働委員）

・もみ殻を燃焼し多種多様な用途に利活用することは、地球温暖化対策の一助になるなど環境にやさしい取組にもなると感じた。（新田委員）

厚生文教常任委員会が報告します！

見て聴き学ぶ
“住みよいまち”へ

市立図書館

11月14日　大阪府泉大津市

従来の図書館像を覆す泉大津市立図書館「シープラ」

駅前商業施設４階に令和３年開館。飲食可能スペースや授乳室、工作・セミナースペースなど多彩な設備を設置し、図書館を日常利用していなかった方にも足を運んでもらえるよう、あらゆるライフステージで役立つ図書館を目指している。基本的な図書館サービスに加え、年間200を超えるセミナーなどの様々な企画を実施している。

ポイントはココ！

- ●**「静かに」という従来のルールを設けない自由な利用を推進**し、静かに過ごしたい方向けのスタディルームも整備している。
- ●**商用データベースの提供や無料セミナーの開催**など、ビジネス支援が充実している。
- ●**地域の産業や歴史に関する常設展示**を実施している。

視察を終えて

・深川市では本との偶然の出会いが減っており、市立図書館をさらに充実させ、誰もが自由に訪れる場にする必要性を強く感じた。（村上副委員長）

・市民のための空間を実現する強い思いと努力に感銘を受け、図書館の未来は固定概念を超えることで発展すると実感した。（大前委員）

不登校対策

11月12日　兵庫県川西市

学びの選択肢を広げる校内サポートルーム

川西市では「学びを止めない」を目標に、不登校支援方策を体系化し、５つの方向性で施策を推進している。市内全ての小中学校に設置している校内サポートルームでは、専任の支援員を配置し一人一人に寄り添う支援に取り組んでおり、自分に合ったペースで学習・生活ができる環境を整備し、学びの選択肢を広げている。

ポイントはココ！

- ●サポートルーム支援員は、**人柄と傾聴の姿勢を重視**し、教員免許の有無は問わない。
- ●児童生徒の**居場所**として機能し、**不安感の軽減や多様な学び**につながる環境を目指している。
- ●児童生徒が**「話したい」「相談したい」「助けて欲しい」と思える相手を増やす**ことを目的としている。

視察を終えて

・深川市では学校規模などの観点から校内サポートルームの設置は困難と考えるが、実情を踏まえた不登校対策に取り組む必要がある。（鶴岡委員）

・川西市では教職員の意識改革や予算拡充などの課題があるが、これらを参考に深川市議会としても問題解決に取り組む必要がある。（山本委員）

子供・子育て支援

11月13日　大阪府富田林市

子育ての安心につながる見守りおむつ定期便

富田林市では、児童の健全育成と虐待の早期発見を目的に、専任の「見守り配達員」が、おむつ配達の際に子育てや生活の困り事を相談対応し、必要な支援につなげる「見守りおむつ定期便事業」に取り組んでいる。入院や帰省でサービスを受けられないケースもあるが、対象の97%以上が本事業を利用している。

ポイントはココ！

- ●**対象は生後２か月～１歳未満**とし、あくまでも**見守りが目的**であるため、**対面でおむつの受け渡し**ができるようきめ細かな対応を行っている。
- ●対面での相談対応に加え、**子育て支援サービスの情報提供**を行っている。
- ●利用者との**信頼関係構築のため、同一配達員が継続訪問**し、月次報告や緊急対応体制も整備している。

視察を終えて

・子育て家庭への寄り添いと早期支援を実現する取組で、行政と民間の協働による効率的な運営は、本市の施策検討の参考になる。（田畑委員長）

・おむつ定期配達により、自然な会話の流れから育児状況を把握しやすいと感じた。また、高い利用率と職員の熱意が際立っていた。（松原委員）

見て聴き学ぶ

議会運営委員会が報告します！

ＴＯＢＡミライトーク

10月21日　三重県鳥羽市

報告から対話 “グループディスカッション方式”へ

鳥羽市議会では、市民との地域課題の共有などを目的に議会報告会の開催方法を見直し、「ＴＯＢＡミライトーク」として、グループディスカッション方式を取り入れた意見交換を行っている。この中で出された意見を各委員会で検討し、議会において意見書・決議の議決や、市への政策提言につなげるなどの取組を行っている。

ポイントはココ！

- 一方通行の報告から**市民との双方向対話**とするため、**団体**（５人以上のグループ）**からの依頼により開催**し、依頼先へ議員を派遣。
- 移住定住、子育て支援、産業振興などのテーマに沿って、**グループディスカッション**方式で実施。
- 市民の意見を上手に引き出すため、堅苦しい雰囲気とならないよう議員もラフな服装で参加。また、**参加者全員が意見を出しやすい環境を整えるファシリテーター**（中立的な立場の進行役）の研修を行っている。
- ミライトークでは**「市民の要望を聞く」のではなく「情報を共有する」という姿勢**で臨んでいる。出された課題について、その要因や解決方法を一緒に考えることで有意義なものになる。
- 出された意見は**「行政に対する意見」「議会に対する意見」「議会として取り扱うべき意見」に分類**し、各委員会で検討の上、政策提言などにつなげる。

視察を終えて

・本市の議会報告会は、報告がメインであるため一方通行になりがち。グループディスカッションによる双方向の議会報告など、今後の在り方を検討する上で生かしていきたい。（伊藤委員）

・グループディスカッションなどで地域の課題を議員が市民と共有しながら、まちの未来に反映していくことが大切であると感じた。（山本副委員長）

議会運営・開かれた議会

10月20日　愛知県尾張旭市

“多様な取組”により議会の活性化を図る

尾張旭市議会では、議会を活性化するには「議論する議会」が必要との観点から議論をスタート。議会運営では「確認権」や「議員間討議」といった運用の導入や、市民に開かれた議会を目指し「議会報告会・意見交換会」や「わくわく親子議会体験ツアー」の開催など、様々な取組を積極的に行っている。

ポイントはココ！

- **確認権（反問権）によって論点を明確**にし、理事者（市長等の答弁者）と的確な議論を行うことができる。また、市民も議論の論点や争点を的確に把握することができる。
- 議員間討議は、確認権と同時に検討。委員会に係る議案や請願・陳情等について**他の委員と意見を交わすことで論点を明確**にし、議論を深めるために導入。常任・特別委員会や議会運営委員会において多数の実績。
- 尾張旭市議会基本条例について、**条例の目的の達成度や見直しのため、改選毎に議員が評価・検証を実施**。評価時期や評価基準の議員間の共通認識といった課題も確認。
- **議会報告会は２部制**とし、第１部では設定した内容の議会報告。第２部は３常任委員会に分かれ、設定したテーマに沿って参加者との意見交換を行う。
- 子供たちに議会へ関心を持ってもらうため、議会で**「わくわく親子議会探検ツアー」**を企画。小学４～６年生と保護者を対象に、市議会クイズ、議場等の探検、記念撮影などを実施し好評を得ている。

視察を終えて

・確認権については、かみ合わない質疑を防止し、議論を深めるには有効であると考える。議会の活性化を図ることは大変重要で、深川市議会でも様々な取組を考えていく必要があると感じた。（村上委員）

・深川市議会でも質問に対し答弁が漏れていると言われる場面が見受けられる。的確な議論が必要であり、確認権の導入に向け検討を進めていくことが重要と感じた。（山本副委員長）